

FD 活動の報告

初 山 洋 介

日本語日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語・入門講義の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに、平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

さて、今年度は、平成22年度に策定した下記の「平成23年度から27年度までのFD活動計画」に従い、FD活動を実施した。

平成23年度から27年度まで（5年間）のFD活動計画

毎年度、教育（特に授業）を改善するための「研修会」を開催する。

研修会の回数：各年度、2～4回程度。

研修会の形式など

講演者・発題者があるテーマについて話し、その後、質疑応答・ディスカッション。

火曜日の全体会の時間帯を当てる（1時間程度）。

講演者・発題者は、話の内容を、A4、1～2枚程度にまとめ、記録として残す。

今年度実施した「FD研修会」の内容は下記の通りである。この研修会（2回）には、留学生センターの専任教員および非常勤講師の大半が出席し、講演の後、活発な質疑応答・議論が行われた。

(1) FD研修会・第1回

実施日：2012年12月18日

講演者：衣川隆生（名古屋大学准教授）

題 目：課題遂行能力育成を目指した教室活動

概 要：

伝え手と受け手が情報を共有するための対話が知識の意識化、精緻化、構造化を促進するという基本的な考え方を踏まえて、授業の実践例を紹介した。特に、中上級日本語学習者を対象とした、「モニタリングの基準」の意識化、内在化、精緻化とモニター・コントロールの促進を目的とした授業について具体的に論じた。また、「メタ認知」の重要性についても解説した。

(2) FD研修会・第2回

実施日：2013年1月29日

講演者：初山洋介（名古屋大学教授）

題 目：百科事典の意味観

言語の意味に関する考え方として、認知言語学などで注目されている「百科事典の意味観」について、日本語の具体例（複合語、メタファーなど）に基づき概説した。特に、意味の理解には、カテゴリーの典型例、理想例、ステレオタイプについての知識が必須であることを論じた。また、日本語学習者にこの種の知識に注目させる必要があることを指摘した。